



# 大原やすお

福岡市議会議員 《早良区》

新型コロナ禍、閉塞感漂う社会において、「はやぶさ2」のニューズは全世界の人々に夢と希望を与えた明るい知らせでした。昨年、六年ぶりに帰還した「はやぶさ2」は小惑星リュウグウから生命の起源に迫る可能性を秘めたサンプルを持ち帰り、再び次の小惑星を目指し宇宙に飛びたつていきました。これも最先端の科学技術の粋によるだけではありません。科学者をはじめ携わった多くのスタッフの心が一つになったことよって成功に結びついたのではないかと思います。

新型コロナ禍の今だからこそ、人と人との心の結びつきを大切にしたいものです。子どもたちの養育や教育、そして住みよい街づくりには不可欠な地域自治の活性化にも引き続き尽力していきたいと考えています。

皆様の思いを市政に反映させるためにもぜひお声を聞かせください。

福岡市議会議員 大原 やすお

新型コロナウィルス感染症は瞬く間に全世界に拡大し、感染者数は一億人にも迫る勢いです。日本においても昨年四月に緊急事態宣言が発出され、以来あらゆる行事も中止せざるを得ない状況になりました。

日本の文化・経済の高揚に繋ぐと期待されていた東京オリンピック・パラリンピックも延期され、さらに日常生活においても三密(密閉・密接・密集)を控えなければならぬ状況です。仕事や教育もITで補われていますが、人間関係で最も大切な親密(絆)が失われていくのではないかと不安を感じています。

新型コロナウィルス感染症は瞬く間に全世界に拡大し、感染者数は一億人にも迫る勢いです。日本においても昨年四月に緊急事態宣言が発出され、以来あらゆる行事も中止せざるを得ない状況になりました。



やすおのこころ

## 自由民主党福岡市議団 大胆な財政出動と施策を提言

コロナ禍への迅速な対応

昨年、突然全世界を襲った新型コロナウイルス感染症は本市におきましても市民の日常生活や経済活動に大きな影を落としています。自民党福岡市議団は緊急事態宣言の発出を受けて直ちに、コロナの感染拡大防止や困窮者に対しての支援について市が独自に緊急対策を講じるように政策提言書を高島市長に提出しました。その後も状況に応じて提言書や意見書を4度にわたって提出し、コロナ禍から市民の命と生活を守るため、これまでの前例や常識にとらわれない大胆な財政出動と施策を求めてまいりました。

政策には、提言の重要な部分が軒並み反映されたものと評価しております。

令和3年度予算におきましても新型コロナウイルス感染症対策として少しでも市民の不安をなくすために、子どもたちの教育や生活の充実・地場中小企業の支援・検査体制の強化など多岐にわたって予算や政策要望をいたしております。



市長に来年度予算要望書を提出する自民党福岡市議団役員(左から3人目大原議員)

## なくてはならない生活の足 急がれる生活交通対策



市民に身近な公共交通機関である乗合バスが、採算性や運転手不足によって路線の休廃止や減便が進んでいます。

高齢化が進むにつれ、郊外だけではなく市街地の高齢者からも、体力の低下や免許証の返納によってバス停まで遠いとか坂道とかで、買い物や金融機関などに出かけるのに苦労している、何とかして生活交通を確保していただきたいとの声が上がっています。

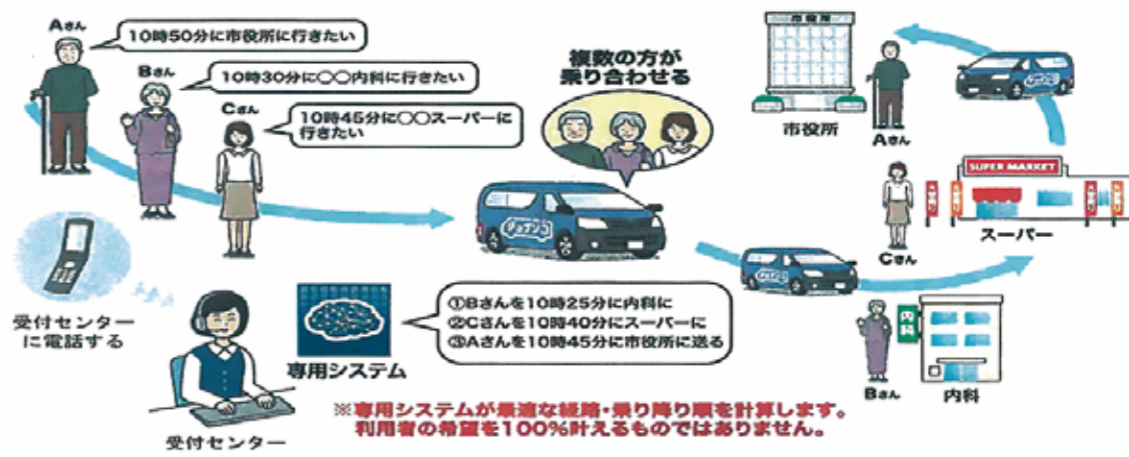
市は地域の取り組みや地域と交通事業者との調整などにさまざまな支援を行っています。早良区南部においてもバスの減便や路線廃止対策として年間約2千6百万円かけていますが、利用者が少なくなかなか効果があがりません。

最近、既存のバスではなく行政が主体で運行するコミュニティバスや、電話やスマートフォンで予約して家の近くで乗降できるオンデマンドバス(タクシー)の検討や運行が始まっています。

自民党市議団も市民の方々に生活交通のアンケート調査を行い交通利便性向上につながる施策を検討しています。

### オンデマンド交通 高齢者利用に最適化された運行システム

オンデマンド交通は会員登録された利用者から乗車依頼を受付し、最適な乗り合わせと経路を計算し、目的地まで乗り合い送迎でお運びするしくみです。



提供…アイシン精機(株)

### 福岡市議会議員 大原やすお事務所

福岡市早良区次郎丸4丁目9-37 (サンラーク次郎丸)  
TEL 092(863)9567  
FAX 092(863)9568  
mail info@oohara-yasuo.jp



2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の為に「集う」ということができず訪問するのにもされるののため後援会活動も自粛の一年となりました。しかし、電話などでお話の端々に「絆」で繋がっていることが感じられ力強くまたうれしい思いを致しました。

コロナの終息が見られるまで予防の基本を守りながら元気に過ごしたいものです。

くれぐれもお体を大切にさいますよう、またこれからの健康とご多幸をお祈りいたします。

### 後援会会長 あいさつ



大原やすお後援会 会長 重松 森雄

# 大原やすおの議会報告



## 絶対にあってはならない健康診断での事故 —9月議会で疑問点を指摘し質問—

Aさんは福岡市主催の「胃がん検診」で大量のバリウムが肺に流入するという事故に遭われ、そのバリウムを取り出せないまま5年後の昨年夏、急性呼吸不全によりお亡くなりになりました。

Aさんはご主人の退職を機に、ご夫婦で故郷の自然や歴史を子どもや孫たち世代に繋いでいこうと、各地域のイベント会場に出向いておられました。なかでもお二人が最も楽しみにしておられたのが遊びを通して子どもたちとふれあうことでした。子どもにも大人にも人気で皆を夢中にさせていました。

お二人は、健康には特に気を使い、健康診断は毎年欠かさず受けておられました。事故はその健康診断で起こりました。

その後入院治療となり、「胃ろう」の手術をするほど重篤な状態になりました。それからの5年間、治療やリハビリに励んでこられました。叶わぬ結果となりました。

Aさんは私に「二度と私のような苦しみや無念さをあじわう人が出ないようにしてください」と語っておられました。また、Aさんのご主人から



シュロの葉でつくったバッタ

「5年前から事故の対応について市に説明を求めているが『受診者の自己責任』という回答には納得がいかない。何とか事故の真相を究明していただきたい」と相談がありました。

私は9月議会で「バリウム流入事故の原因やなぜ救急車で搬送されなかったのかについて」多くの資料を基に疑問点を指摘し質問しました。答弁で「事業団と協議の場をもち二度と集団健診で事故が起こらないように努める」との約束をいただきました。

ことの重大さを察知した新聞各社にも取り上げられ、検診実施機関の理事長の目に留まりました。調査の結果、事故が報告されずに処理されていたことが分かったそうです。理事長は早速、体制の見直しと再発防止案を作成し故Aさん宅を訪問されました。ご家族に書類を渡し「事故の再発防止と事業団内の改善をおこなう」ことを約束されたそうです。

健康を願って受ける健康診断で起きた事故です。関係部署でこの事故の原因究明を進めていただき二度とこのような痛ましい事故が起きないように今後も市議としてしっかり見極めていきたいと思えます。



レントゲン写真のパネルを掲げ説明、質問する大原議員

## 議会質問

議会では胃がん検診での誤嚥事故の他に下記の件について質問しました。

### 福岡市における木材の利用促進について

森林は木材の生産だけでなくCO<sub>2</sub>吸収による温暖化防止や豪雨による災害防止など多面的機能を持っています。木材価格の低迷から山林が放置され荒廃、その機能が低下しています。木材の利用促進は林業の活性化だけでなく、その機能を回復することができます。先ず市の公共建築物の木質化を進めることが重要です。

### 福岡市に国内観光客を誘致する観光資源の掘り起こしについて

市内には観光客をひきつける名所旧跡が無いと言われますが、古代より大陸との交流も盛んで、わが国最古の王墓と言われる吉武高木遺跡をはじめ、元寇防塁や神社仏閣など歴史にまつわる遺跡も数多くあります。これらの観光資源を掘り起こし、歴史と自然を生かした観光都市福岡としての新たな魅力づくりをすべきではないでしょうか。

## 脊振山系にスーパー林道が完成



### 二酸化炭素削減、地球温暖化防止にも繋がると期待

脊振山系の林業活性化と環境保全・水源涵養・水害防止など多面的機能を充足させるためのスーパー林道（早良基幹林道）が完成しました。脊振山系の中腹を横断する曲淵（三瀬峠下）から脇山（椎原）までの約15km。10年ほどの予定でしたが財政事情や集中豪雨での崩落などで着工から21年目にようやく完成いたしました。

このところ、温暖化の原因とされる二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収する森林の役割に大きな期待が寄せられています。しかし、長年放置され荒廃した森林はCO<sub>2</sub>の吸収率が減少しています。早良基幹林道が完成したことで森林整備や伐採の効率が飛躍的に伸びるものと期待されます。

### 市民が楽しめる道路としての活用も視野に

この林道をマラソンの練習や大会にも利用できるのではないかと元マラソン選手の重松森雄さんから提案がありました。ボストンマラソンで優勝しウインザーマラソンで世界記録を更新した重松さんは背振の林道を走り続けたことで足腰が鍛えられ世界記録に繋がったと語っておられました。



林道からは福岡市が一望できます。空気もきれいでマラソンには最適かもしれません。

このように基幹林道が林業の作業道だけでなく市民の皆さんが楽しめる道路としての利用方法を考えてみるのもいいのではないのでしょうか。



## さっぱりわからん「カタカナ語」…私たちに解る言葉を使って!

### ■カタカナ言葉の拡散（オーバーシュート）

パンデミック、アラートなど新型コロナウイルス感染症拡大とともに多くの聞きなれないカタカナ語が飛び交っています。高齢の男性から私に「ニュースで『クラスター』とか訳のわからないカタカナ語で説明されるけど、わかる言葉で説明してくれるように言ってくれないか!」と抗議の電話がありました。感染症の予防を注意喚起する言葉がカタカナ語、それも聞きなれない言葉のため特に高齢者は意味が解らず苛立ちと不安が募るばかりです。

これが公的機関や、新聞など報道機関でも何の注釈もなく使用されているのです。行政側は危機管理責任を果たしているのかとの疑問を抱きます。もっとわかりやすい日本語があるのにと更に疑問が湧いてきます。

### ■意味不明なカタカナ語は増えるばかり

私も3年前の議会で、市の行政文にはカタカナ言葉が多すぎると疑問を投げかけました。答弁では中央官庁が使用しているため使わざるを得ないとのことでしたが、市民が理解できないと自己満足で無意味ではないかと反論しました。しかしながらその後も相変わらずカタカナ語は減ることもなくむしろ増えるばかりです。

国際化が進む中、やむを得ないところもありますが、このままだと自然や人間の五感を研ぎ澄ませ素晴らしい表現ができる日本語が忘れられていくのではないかと危機感がつります。

### コロナ関連カタカナ語

**オーバーシュート**  
予測を超えた感染者の爆発的な増加。アウトブレイク(一定地域の集団で突発的な発生)やパンデミック(世界的な大流行)と使い分けられている

**クラスター**  
集団感染。果実や花などの房、集団や一団という意味を持つ単語で、科学や天文学、ITなどの分野でも使われている

**ロックダウン**  
都市封鎖、強制的な移動制限の発動。ただし、法律の違いによって罰則付きの外出行動など海外で実施される大規模なロックダウンは日本では行えない

**ソーシャル・ディスタンス**  
感染拡大を防ぐため、人と人の物理的距離を保つこと。自治体などは目安として1~2mの距離を保つよう推奨している

**COVID(コビッド)-19**  
新型コロナウイルス感染症のことで、新型コロナウイルス自体の名称は「SARS-CoV-2」

**マグニチュード**  
エネルギーの大きさを示す尺度。地震以外にも音や痛みの大きさなどを示す際にも使われる